



16号

平成30年3月31日

発行  
群馬県立女子大学  
同窓会事務局  
370-1193 佐波郡玉村町上之手 1395-1  
TEL:0270-65-8511  
URL:http://shiou-kai.com/



同窓会長  
野村留美子

同窓会員の皆様、いかがお過ごしでしょうか。今回は、去る平成29年10月1日に新たにご就任された小林良江学長より、ご挨拶をお寄せいただきましたので、ご紹介いたします。県女初の女性学長のご就任を大変喜ばしく思います。

### 新学長紹介



小林良江 学長

野村留美子同窓会長、そして同窓会の皆さまには、常日頃から本学の教育ならびに学生の活動に対して、温かい

ご理解とご支援を賜り、厚く御礼申し上げます。昨年度も同窓会からは新入生への記念品、学生の課外活動などに対する支援金、卒業時の紫桜賞授与などのご高配をいただきましたこと、心より感謝申し上げます。

濱口富士雄前学長の任期満了に伴い、昨年10月1日に新学長に就任いたしました。濱口前学長が築かれた路線を継承しながらも、「個性と魅力にあふれた大学」づくりに邁進する所存でございます。どうぞよろしくお願いたします。

昨年度も多くの学生が目覚ましい活躍をいたしました。「住友理工学生小論文アワード」では最優秀賞次席、「青雲塾・中曽根康弘賞論文大会」では優秀賞を受賞し、また「学生ビジネスプランコンテスト」では3年連続の入賞をいたしました。「JFN学生ラジオCMコンテスト2017」ではブロンズ賞を受賞、作品がFMぐんまで2週間オンエアされました。サークル活動では、本学ALPHA DANCE CIRCLEが「カレッジフラ・コンペティション2017」で団体・ソロの部ともに優勝するという快挙を成

し遂げました。特に、団体の部ではこの6年間で4回目の優勝となり、全国でも強豪校として注目を集めています。

また、本学におきましてもアクティブラーニングの形態を取り入れた講義が多く開講されています。芸術プログラム(文学部開講)では、玉村八幡宮の「龍舞衆」(玉村町の名前の由来になった龍を操る、町民による芸能)に参加して、中心的な役割も果たしました。国際コミュニケーション学部の講

義内では、JR東日本の「駅からハイキング&ウォーキングイベント」のプランを学生たちが作り上げ、3月に前橋駅出発の「学生駅ハイ」が開催されました。このように学生たちが学内外で活躍できますことも、社会の各方面から学生を温かく見守ってくださる同窓会の皆さまのお蔭でございます。

さて、平成30年4月より、本学は群馬県立大学法人の下の「群馬県立女子大学」に移行いたしました。公立の女子大学という点では変化はございません。全国でも2校、東日本には1校しかない貴重な存在である公立女子大学の特徴を活かし、「より個性的な」「より魅力的な」姿を目指して教職員一体となって尽力すべく、身の引き締まる思いを新たにしています。

今後とも本学、なにより学生へのご理解とご支援の程、どうぞ宜しくお願い申し上げます。

### 《学長プロフィール》 小林 良江

(こばやし よしえ)

平成29年10月に学長就任。  
専門はジェンダー・ポリティクス、国際政治学。

東京都出身 高崎市在住

1978年 学習院大学 法学部卒業  
米セントラルオクラホマ大学  
大学院(修士) 修了

同ハワイ大学マノア校  
大学院(博士) 修了

ハワイ大学マノア校 非常勤講師を経て

2005年 群馬県立女子大学  
国際コミュニケーション学部  
助教授

2007年 同学部 教授

2016年 同学部長 兼  
国際コミュニケーション研究科長

2017年10月 学長



より良い大学運営をめざして

## 群馬県立女子大学

### 法人化

平成16年4月に、すべての国立大学が法人化されてから14年。平成30年4月より、群馬県立女子大学も「公立大学法人」として、新たにスタートすることになりました。「法人化ってどういうこと?」「何が変わるの?」という疑問をもつて、調べてみることにしました。

少し古いデータですが、県女法人化が検討され始めた平成26年4月時点では、全国の公立大学86校中68校が法人化されていました。18歳人口の減少により大学にとって「選ばれる大学」になることは非常に重要なことです。県女は、学生の留学に対する支援、少人数教育など非常に優れた取り組みを行ってきていますが、良い面は更に伸ばし、課題は解決していけるように、法人化が決定しました。

### ◎法人化Q&A

(群馬県ホームページより)

#### ①公立大学法人とは何ですか?

公立大学法人は、公立大学を設置・運営するために地方独立行政法人法に基づいて設立される法人で、これまで県の一機関として行ってきた大学の運営を、新たに設置した公立大学法人が、企業会

計原則に基づいた経営的視点をもって行うしくみです。

法人化により、運営の柔軟性や意思決定のスピードを高めて、これまで以上に効率的・効果的に大学を運営していくことをねらいとしています。

#### ②なぜ県立大学を法人化するのですか?

平成30年以降、18歳人口の減少が始まることが見込まれており、国立・公立・私立に関わらず、学生の確保や教育水準の向上などを目指した大学間競争がさらに激化することが予想されています。県立大学を法人化することで、他大学と同じスピードや基準で判断できる体制を整え、更に魅力を高めていきたいと考えています。

#### ③大学を法人化した場合、どのような形で運営しますか?

県が新たに1つの公立大学法人を設立し、2大学(女子大学、県民健康科学大学)の運営管理を行う形態をとります。

#### ④法人化後、県は大学運営に関わらなくなるのでしょうか?

法人化により、大学の運営は公立大学法人が担うこととなりますが、県には法人の設立団体としての責任があります。

例えば、県は法人の運営方針となる「中期目標」を策定し、それに基づいた法人の大学運営の実績等を評価することになっています。また、「運営費交付金」という形で、大学運営に必要な経費

の一部を負担するなど、法人(大学)の自主性・自律性に配慮しつつ、運営に関わってまいります。

#### ⑤法人化により、キャンパスの所在地変更や学部・学科の再編を行いますか?

法人化を理由として、キャンパスの所在地変更や学部学科の再編を行うことはありません。

#### ⑥法人化すると、授業料はどうなりますか?

県議会の議決を経て、知事が認可する上限額の範囲で、公立学校法人が定めることとなります。

法人化後においても、適正な金額、水準を維持するという根本的な姿勢は変わりませんので、現状の授業料の水準や他の国公立大学の状況も踏まえて決定することとなります。

#### ⑦法人化すると、入学試験はどうなりますか?

法人化によって入学試験の方法が変わることはありません。ただし法人化の有無に関わらず、大学が入学者受入方針を見直し、試験科目等を変更することはあります。入試を変更する場合は、事前に大学のホームページ等で周知します。

#### ⑧法人化すると、学位や資格はどうなりますか?

法人化によって授与される学位や取得できる資格が変わることはありません。

## 「同窓会カフェ」

### 盛況のうちに

平成29年11月4日から5日に行われた錦野祭で、学生会館2階の同窓会室を開放し、「同窓会カフェ」を行いました。5日だけの開催でしたが、今年度で5回目になるためか、少しずつ浸透してきたと感じています。

前年の同窓会幹事会・総会でこの企画を知り訪ねてくださった同窓生、学生の保護者の方、美学美術史学科卒業生の展示を見に来てくださった在校生など、嬉しい来訪者がたくさんいました。また次回も多くの皆さんとお会いできることを楽しみにしています。



# 2017年度 紫桜賞決定！ アロハダンスサークル

近年、群馬県立女子大学は“フラダンスの強豪校”として、全国的に有名になっています。前年以上の優秀な成績を取めたことを評価し、今回も引き続き「アロハダンスサークル」に紫桜賞を贈ることを決定しました。学生からの受賞コメントを掲載します。



2012年にスタートした日本初の『カレッジフラ・コンペティション』は、ハワイの伝統文化・フラに真剣に取り組む学生フラダンサーのための競技会です。

今年度は団体の部 15 チーム・ソロ部門 20 人が出場した中で、県女が両部門ともに優勝。常勝チームとして君臨し続けています。



群馬県立女子大学アロハダンスサークル部長の鈴木杏奈です。この度は紫桜賞という素晴らしい賞をいただき、心から嬉しく思います。ありがとうございます。

私たちは昨年8月に行われた、カレッジフラ・コンペティションで団体部門、ソロ部門に参加しました。そして、どちらの部門とも優勝という成績をいただきました。このカレッジフラ・コンペティションには2013年から参加しており、これまで団体ソロ含め優勝7回、準優勝1回という結果をいただいています。

フラというものは、ただ腰や手を使って踊っているという訳ではありません。ひとつひとつのモーション（振付）の全てに意味があるのです。それらを使い、メレ（曲）にこめられた想いやお話を、見ている人達に伝えるというもののなのです。その為新しいメレを覚える時は、そこには



どのような物語や意図がかかっているのかを理解する所から始まります。大変なこともかもしれませんが、そうすることでメレに入り込むことができるので、そこに時間をかけるのはとても大切なことだと思っています。

今回のカレッジフラ・コンペティションに向けて4月から本格的な練習が始まりました。通常は週1回のレッスンですが、毎日空きコマやお昼休み、放課後等の時間を使って自主練習を行いました。もちろん当日を迎えるまでの期間中、たくさん壁に当たりました。

暑い中での練習に体力面でも精神面でも厳しさを感じることもあります。個人的には、練習してもなかなか上達することができず、みんなより遅れをとっているのではないかという焦りと不安で、自分が踊っている姿を鏡で見ると怖くなる時期もありました。また、12人のメンバー全員で同じ表現をするということは、みんなが本当に心をとっししなければいけないということも痛感しました。ですがその分、本番でステージに立った時、全員でこの日を迎えられた事への喜びがあふれ、またずっと私たちをサポートしてくれたみなさんからのたくさんの愛を感じ、心から幸せでした。踊り終わった後は、涙が止まりませんでした。

私たちは今年もカレッジフラ・コンペティションに出場する予定です。感謝と謙虚な気持ち、優しさを忘れることなくこれからも練習を続けます。応援していただけると嬉しいです。



## 【参考】群馬県立女子大学同窓会表彰基準

第2条 表彰の基準は次のとおりとする。

- (1)文化及び学術・スポーツ等・・・学術及び芸術及び芸術文化活動の振興に務め、大学の発展に功劳顕著な者
- (2)社会活動・・・社会において活躍し、大学の発展と大学の名の高揚に貢献した者

# 卒業生座談会

突然ですが…第1回(?)

参加者…司会W 卒業生A・B・C

W：皆さん、初めまして。司会のWです。17期生です。本日は、お集まりいただき、ありがとうございます。皆さんは同じ公立小学校に勤務されているんですね。Aさんから自己紹介をお願いします。

A：国文1期生のAです。学習サポーターをしています。ひよんなことからCさんが同窓生だと知りました。県女も長い歴史を刻んできたのだと、感慨深いものがありました。

B：英米文化学科26期生のBです。

C：英文9期のCです。高学年の学級担任をしています。

W：学校の先生というと、大学を卒業してからずっと教員として働いているイメージがあります。しかし、みなさんは少し違う経歴をお持ちとか…。

A：はい。私は大学を卒業後、すぐに教員になり、出産を機に退職しました。その後はいろいろな仕事をして。印象深いのはパン屋で、高校の昼休みに販売に行き、生徒さんとのやりとりを改めて楽しいと感じましたね。その後、学校の図書室で働く仕事に応募したのをきっかけに教育委員会からお話をいただき、介助員になりました。教科支援講師等を経て現職です。

B：私が県女に入学したのは40歳の時です。ほどなくして妊娠し、1年間休学しました。自宅にて夫と二人で開いた塾で英語を教えています。教員免許は持っていなかったのですが、免許取得と卒業を目指して学びました。

C：私は、大学卒業後は一般企業に勤務しました。そこでの仕事もやりがいがありましたが、「教員になりたい」という思いが消えず、他大学の通信課程で小学校の教員免許を取りました。第2子の出産と前後して、そこから採用試験を受け始めました。

W：なるほど。皆さん、それぞれなのですね。今お仕事をしている中で、大変なこと、楽しいこと、やりがいを感じていることなどあれば教えてください。

A：勤務する学校によって、同じ肩書きでも業務が違ったり、反対のこともあったり、柔軟さがが必要です。自分のできることを一生懸命考え、結果として子どもや先生方の役に立てたと感じた時はとても嬉しいですね。少々のこととはチャラになりますね。

B：小学校での1クラス一斉授業では、塾の英会話教室とは異なる業務が多く、最初は戸惑うこともありましたが、徐々に子どもたちが自信を持ち始め、生き生きと活動をする様子を見ると、子どもたちに新しい知識を吸収してもらいたい、これからの将来が豊かなものになるよう英語を学んでもらいたい、という気持ちが強くなります。

C：小学生は6年差があるので、何年生の担任かでそれぞれ性格や考え方が、発達段階も異なる子どもたちと接しますから、難しさを感じることはあります。また、宿泊を伴う行事などの前には、いろいろな準備と並行して業務を進めることになるので、責任を感じます。でも、子どもがよい表情で日々の生活を送っているの嬉しい気持ちになります。

W：皆さんにとって、県女で学んだことはどんな意味をもっていますか。また、学生へのアドバイスがあれば教えてください。

A：1期生の特権ですが、大学生活はとてもこじんまりした環境からスタートし、先生方とも親密に過ごすことができて幸せだったと思っています。ほどほどの規模で、ゆったり濃密な学生時代を過ごせるのは県女ならではのようです。社会に出てからも学びは一生続きますが、「学ぶことを学ぶために学べる会」を大切に過ごしてほしいです。

B：子どもの英語教育に昔から興味があり、その一環でマザーグースや聖書に触れるようになりまして。県女は社会人入学の制度があるのと知って、一生の楽しみとして英米文化の知識を得たいと入学を決心したのが40歳でした。結果、独学では学ぶことができない知識を県女の先生方から得られたことは私の宝物となりました。

C：私が学生だった頃、タウン誌に「蛙が恋人、県女生」という川柳が出ていたほど、田園風景が広がっていました。しかしある時、新聞の片隅に玉村で活躍している方の記事を見て、人間が能力を生かすには、場所が都会であることが絶対条件ではないのだと考えるようになりました。そして、私はこの場所ががんばろうと思えました。…なんて偉そうに言っていますが、勉強にはそれほど熱心ではなく、楽器を持って西へ東へ…。そんな私も、就職してからは音楽からも英語からもすっかり離れてしまいました。人生にあまり後悔はありませんが、それらは「続けておけばよかった」と。「働き方改革」「ワークライフバランス」が叫ばれる様になった昨今です。好きなことはできるだけ長く続けてもらいたいと思います。

W：ありがとうございます。これからも仕事にプライベートに、「活躍されること」をお祈りしています。

お世話になりました

## 退職される先生

文学部英米文化学科 教授 嶋田 裕司 先生

文学部英米文化学科 教授 藤村 好美 先生

国際コミュニケーション学部 国際

ビジネス課程 教授 安齋 徹 先生

群馬学センター 教授 熊倉 浩靖 先生

※先生方にご寄稿いただき「在勤中の思い出」は、4月以降に紫桜会ホームページに掲載する予定です。

## ♪ 編集後記 ♪

前回までは旬花報を卒業生全員に郵送していましたが、今回からはホームページに掲載する形式に変わりました。時間の経過に伴って、変化していくのは世の常ですね。今後はホームページ上でご覧いただけると幸いです。

同窓会が発足するときに、「今はそれぞれ忙しくても、いつか大学時代を懐かしく振り返れる日がくるはず。その日までがんばれ。」とおっしゃった先生がいまいた。群馬県内で生活をしていると、いろいろなところで同窓生と会う機会があります。小さな大学だからそのつながり、絆を感じることで、本当に嬉しく思っています。

昨年より学長が交代し、この春から法人化されました。また、新しい時代が始まります。同窓生の一人として、これからは母校の未来を見守っていくつもりです。(I・A)

満開の桜と共に

藤村好美

2018年3月29日、藤村研究室の窓からは、満開の桜が咲き誇っているのが見えます。9年間お世話になった群馬県立女子大学を去る日が近づいてまいりました。9年前の2009年春、広島大学から送った荷物を解き研究室の書棚を整理していた自分の姿を思い出しながら、1冊1冊、書棚から本を抜き取り箱に納めている私があります。傍らには9年前と同様に手伝ってくれている夫の姿があります。

書棚の整理をしながら、9年間の群馬県立女子大学での教員生活が生き生きと蘇ってきます。著名なアメリカ研究者の方々をお招きし、県民公開授業の「現代アメリカ論」を企画・運営したこと、夏休みの教員免許更新講習でアメリカの社会・文化について論じたこと、在日米国大使館と本学の間でアメリカンシェルフ（米務省からの米国関係寄贈図書を受け入れ）の覚書を締結し、図書館に寄贈図書コーナーを常設するお手伝いをしたこと、一流の音楽家をお招きして「歌とピアノのコンサート」を企画・運営し、本学の講堂で眠っていたスタインウェイの音色を学内外の皆様に堪能していただいたこと、英米文化学会の年次大会で大学院生や学部生の研究発表を楽しんだこと、たくさんの授業、そして何より藤村ゼミの面々がそれぞれユニークで優れた卒業論文を執筆できたこと・・・

定年を待たずに少しだけ早く大学を去る決心をしたのは、1年ほど前のことです。4月からは国内の某大学の非常勤講師をしながら、カナダの大学での在外研究も行うという、物理的にも時間的にも欲張りな計画を実行に移します。我が家に戻って来た書物の山に囲まれて、少し急かされています。時間を一層大切にしたいと志を新たにしているところです。

9年間お世話になった群馬県立女子大学の教職員の皆様、ありがとうございました。同窓生の皆様には執筆活動等を通してまたお目にかかることができれば、望外の幸せです。



藤村研究室より臨む満開の桜（2018年3月29日撮影）

## 悔し涙のその先に

安齋 徹

ニューヨーク勤務や社長秘書、部門の人事統括責任者など多様な業務を経験した28年間にわたるサラリーマン生活を経て2012年4月に群馬県立女子大学に着任し、6年間教壇に立たせて頂きました。ゼミの活動や地域連携案件で紫桜賞を賜り、同窓会には改めて御礼申し上げます。

振り返ると、全力で走り抜けた疾風怒濤の6年間でした。閉塞感漂う社会や企業に少しでも風穴を開けられるような元気と勇気のある人材を育成することを常に祈念していました。

授業では「経営学」「ビジネス・リーダー論」「ビジネス・コミュニケーション」「社会デザイン論」「キャリアとリーダーシップ」「企業の社会的責任」「金融から読み解く現代社会」などの科目を担当しました。単に知識を伝授するというよりも、毎回の席替や頻繁なディスカッション、リアルな題材や仲間と共に課題に取り組むグループワークなどを通じて、未来志向の授業を心掛けました。

ゼミでは「日本一のゼミを目指そう！」という目標を掲げ、テキストの輪読や卒論執筆に取り組む本ゼミに加えてサブゼミを開催し、様々なことに挑戦しました。学外コンテストでは、大学生観光まちづくりコンテスト4年連続入賞、学生ビジネスプランコンテスト3年連続入賞、NRI 学生小論文コンテスト3年連続入賞、JFN 学生ラジオ CM コンテスト3年連続入賞という実績を残しました。「東北を忘れない」ために東北復興応援のボランティアは5年連続で行いました。国土交通省、群馬県立図書館、前橋市、玉村町、みなかみ町などと連携し、地域の課題と向き合い、解決策を考え、若者目線で斬新な提言をさせて頂きました。

もちろんすべてがうまくいった訳ではありません。壁にぶつかり、無力さに打ちひしがれ、何度も悔し涙を流しました。学生は幾多の挫折を乗り越え、それでも前を向いて進んでいきました。「頑張り癖がついた」「失敗から学ぶことの方が多かった」「日本一は簡単ではなかった」「やり残したことは何もない」そんな言葉を残して笑顔で卒業していきました。学生時代の「良質な失敗経験」が卒業後の「成長の糧」になると確信しています。本領発揮はこれからです。

ゼミでは、毎年「アザレア・セミナー」というOG勉強会と「アザレア会」というOG会を開催しています。卒業してからこそ、学びと交流が必要と考えているからです。社会という大海に漕ぎ出し、荒波に揉まれる卒業生が、たまに立ち寄り栄養補給できる「港」としての役割はこれからも果たしていくつもりです。

定年退職となりました。本当にお世話になりました。ありがとうございます。県女を去るに当って、同窓会の皆様に3つのお願いがあります。

第1のお願いは、群馬学センターの諸事業にご参加いただきたいというお願いです。

大学には3つの使命があると言われます。教育・研究・社会貢献です。群馬学センターの主要業務は、県女の研究力・教育力を県民の方をはじめとする社会に還元していくことにあります。

その一環として群馬学連続シンポジウムと萩原文庫シンポジウムを開催しています。合わせて年4回が大体のテンポです。ご興味・関心に合わせてご参加ください。シンポジウムを聞かれてのご意見、ご苦言、ご希望、ぜひお聞かせください。

それらシンポジウムの記録を『群馬学の確立にむけて』と題して上毛新聞社から刊行しています。すでに8巻にもなっています。お買い求めいただければ幸いです。

公開授業も行っています。私在籍の際は「上毛かるた」や「上野三碑」を話しましたが、松浦利隆教授のもとで新しい授業が始まります。平日ですが、どなたでも、一部だけでも、予約等なしに聴講できますので、県女生に戻ってお聞きください。

第2のお願いは、上野三碑を読み継いでいただきたいというお願いです。

上野三碑のユネスコ「世界の記憶」登録の発端の一つが、平成21(2009)年10月開催の第17回群馬学連続シンポジウム「上野三碑－古代群馬の至宝」であることは確かです。シンポジウム記録は『群馬学の確立にむけて 5』に収めてあります。

山上碑(681年)・多胡碑(711年)・金井沢碑(726年)からなる上野三碑は、元々61しかない国特別史跡にそれぞれ指定されている国宝中の国宝の一つですが、世界の記憶に登録されたことで、日本の史跡から世界の古典への第一歩が記されました。

1300年も前の石碑と言うと、そんなもの読めないと思われるかもしれませんが、どの碑でも初めて見る方でも、文字が拾え、ほぼ頭から読むことができます。

しかも、山上碑には、自分を育ててくれた母への深い思いが、多胡碑には、国の命令に応じて新しい地域を作ろうという決意が、金井沢には、仏教という外来の新思潮をしっかりと受け止め、ご先祖様の名に恥じない社会貢献をなしていく志が刻まれています。

同窓生の皆様にも、読み継ぎ、心をつなげていく輪に加わっていただきたいと思います。手前味噌ですが、拙著『増補版 上野三碑を読む』なども多少の役に立つと思います。

第3のお願いは、学生寮などの整備への声をあげていただきたいというお願いです。

県女の教育環境として学生寮と交通利便性の向上は本当に切なる課題です。ご実感があると思います。

一つ可能性のある話があります。昨秋の県議会で、大沢知事は高崎駅から太田・館林に向かうBRT(バス高速輸送システム)検討への意欲を示されました。新しい国道354号線にバス専用レーンを設けて、高崎駅東口と玉村、さらに東毛各地を結ぶ計画です。これが実現されれば、県女をめぐる交通利便性は向上すると思います。

加えて言えば、留学生会館も兼ねた学生寮がどうしても必要です。学生が心身を鍛えコミュニケーション能力を高めるためには集団生活は重要な要素です。県女は世界各地の大学と提携関係を持っていますが、留学生会館がないため、希望する留学生を受け入れられていません。留学生と日本人学生が共同して暮らす空間が設置されれば、相互理解は進みます。県女から世界の平和が構築されます。

様々な機会で、この2つの話を出していただきたいものです。